

講座番号
252001

『源氏物語』の心を読む ～横笛・鈴虫の巻～

文化・教養

申込
締切

3/21(金)

開講計画 全10回／各90分

回	日付	曜日	10:30～12:00
1	4/16	水	源氏と柏木の友人・夕霧は、柏木の一周忌を弔う
2	4/30	水	夕霧、柏木の遺言を不審に思う
3	5/14	水	夕霧、柏木の未亡人を訪問
4	5/28	水	未亡人の母・御息所、夕霧に、柏木遺愛の横笛を贈る
5	6/11	水	夕霧、源氏の六条院に行き薫を見て、様々に思う
6	6/25	水	夕霧、源氏に柏木の遺言を語る
7	7/9	水	女三の宮の持仏開眼供養
8	7/23	水	源氏、女三の宮の出家生活を支える
9	8/6	水	源氏、女三の宮の庭に鈴虫を放ち、唱和する
10	8/27	水	源氏、冷泉院に参り、冷泉院、その中宮としみじみ語る

受講料 17,000円(教材費別)

定員 35名

源氏の晩年の生活の様子を語ります

横笛の巻：柏木の一周年忌からその年の秋までが語られます。源氏と夕霧は、心をこめて一周忌をつとめます。朱雀院は、娘達（女三の宮と女二の宮）の薄幸に心を痛め、仏道に向かう日々です。源氏は、うら若い女三の宮を、出家に追い詰めたことを深く恥じつつも、柏木の不倫の罪は許しがたいのです。夕霧は柏木遺愛の横笛を未亡人の母から譲り受け、源氏に預けます。

鈴虫の巻：女三の宮は、源氏の六条院中で手厚い庇護をうけて、出家生活をおくります。八月十五夜、源氏は女三宮と、庭に鈴虫を放ち、和やかに過ごし、やがて鈴虫の宴となります。

講師

本学名誉教授
うめの こ
梅野 きみ子

テキスト・教材

初回、教室にて、プリントを配付します。同時に、テキストの販売もします。お持ちでない方は、講座申込み時に注文して下さい。テキスト以外に、他の本の持ち込みも自由です。

- ①宮内庁書陵部蔵青表紙本『源氏物語 横笛』
編者 高橋和夫 新典社 715円(税込)
 - ②宮内庁書陵部蔵青表紙本『源氏物語 鈴虫』
編者 菊田茂男 新典社 715円(税込)
 - ③仮名変体集
編者 伊地知鐵男 新典社 385円(税込)
- ※①②は必須、③は任意 ※2025年1月現在